

広報

おとす

2018

6

No.161

咲き誇る ツツジ



がんばる大洲っ子

心をひとつに、学校行事を盛り上げたい

大洲南中学校 2年(現:大洲南中学校 3年)

安田 悠人 さん



僕は、昨年の12月から、生徒会長として生徒会を運営しています。僕は小学生のときに、児童のリーダーとしてみんなをまとめ、学校の行事に取り組みました。その経験から、中学校でも代表として活動したいと考え、生徒会長に立候補しました。生徒会長として、生徒全員のお手本となるよう、あいさつ・返事を大きな声でしていきたいと思っています。

生徒会の大きな活動のひとつに、5月に行われる大洲南・北中学校合同の開校記念式典があります。そこで行われるエール交換で、生徒全員がひとつになったエールを披露できるように、生徒会長として学校全体をまとめていきたいです。

将来の夢は、国語の先生になることです。先生の工夫した教え方を見て、興味を持ちました。先生になる道は険しいかもしれませんが、自信を持って何事も実践していきたいと思いません。

6月の納税など 納期限は7月2日(月)です。

税 別	6月	7月	8月	9月
市 県 民 税	1期		2期	
固 定 資 産 税		2期		3期
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税		1期	2期	3期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	43,874人 (- 51)	件数 36件(24件)
男	20,952人 (- 15)	死者 0人(1人)
女	22,922人 (- 36)	負傷者 50人(28人)
世帯数	20,069世帯(17)	

(2018年4月末現在)

CONTENTS 目次

2ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3ページ～	(特集)大洲の良さを伝えたい
6ページ～	おおずニュース
10ページ～	シリーズ
11ページ～	おしらせピックアップ
22ページ～	情報ひろば
24ページ	集まれO級若モン
25ページ～	図書館・保健センター・各種相談ガイド
28ページ	がんばるひと (肱川プロジェクト)

今月の表紙



4月26日(休)、富士山とみすやまにてツツジを撮影しました。約6万3,000本のツツジが満開を迎え、白やピンクの花が山頂を彩りました。

例年より早い時期の満開となりましたが、富士山公園には多くの人が訪れ、写真撮影などして楽しんでいました。

(特集) 大洲の良さを伝えたい



長年大洲に住み続けていると、観光地と呼べる場所や魅力といったものが、他の地域に比べて少ないと感じる時があるかもしれません。しかし、私たちが当たり前のように暮らしている日常の中にも、気付かなかった大洲の魅力がたくさん詰まっています。



生まれも育ちも大洲です
(通称：生大^{なまだい})

代表
土居 百合子^{ゆりこ}さん

「生まれも育ちも大洲です」は、大洲を訪れる人へ、見て、食べて、遊ぶことができるさまざまな情報を発信していくことを目的とする団体です。

土居さんは、明治22(1888)年創業の笹川写真館に勤めているカメラマンで、多くの市民のみなさんに支えられ、シャッターを切り続けられることに感謝しながら、仕事をされています。

「大洲は、派手すぎず、控えめなところが魅力だと思っています。この活動を通じて、大洲の素晴らしさを発信したいとも考えていて、それを仕事にも生かしながら、常に『この大洲が大好きなんです』を心に持ち続けています」

「いつか大洲で、大洲でしか撮れない写真を撮りたい」

このフレーズは、5年前の春に土居百合子さんが抱いた思いでした。当時、土居さんは、自分の熱い思いを心にとどめて、カメラマンとして仕事を続けていました。しかし、自分が本当にやりたいことは何なのかと考えるようになりました。

それは、仕事を生かして、結婚式で撮る前撮り写真ではなく結婚の記念として未来に残る写真を撮

影する、フォトウエディングに着目しました。そして、

「大洲を見ると、水と空気、山と街、全てが美しい。派手すぎず、控えめで、霧のベールをまとった神秘的街だ(土居さんのブログより引用)」

と気付きました。

そこで仕事を通し、大洲を舞台とした和風のフォトウエディングとした和風のフォトウエディング「大洲『和』ふおと婚」を始め、撮影した写真をインターネットやSNSに公開しました。すると、

それを見た県内外の人たちから、多数の依頼を受けるようになりました。

最近では、神社・寺院での挙式紹介をしています。日本の伝統的なしきたりに沿った結婚の儀式を地元で行うことで、大洲の神秘的な街を表現しています。そこに若い人たちが集い、住み始め、大洲の良さに気付くのではないかと感じているそうです。

現在では、「生まれも育ちも大洲です」の代表となり、これまで以上に大洲の良さを伝えていきます。





女性として、この仕事に誇りを持ち、より良い写真を撮ること

土居さんは、今から16年前にカメラマンである父のアシスタントとして、写真業界へ足を踏み入れました。当時の写真撮影の業界は、男性が多くを占めていて、戸惑うことも多かったそうです。

一方、結婚式の撮影は、ウェディングプランナーと呼ばれる結婚式をプロデュースする人と段取りを決めるのですが、実は、このウェディングプランナーは、極端に女性が多い職業になります。挙式前の段取りは、撮影の良し悪しに響くこともあり、慎重に行う必要があります。このような場面で、女性同士で話がスムーズに進むことが、女性であることの最大の利点だと土居さんは話しています。



「女性と男性では、得意なことも違い、それぞれに適した役割もある。その違いを認め合うことによって、自分自身の得意なことにより気付くことができた」と話していました。

土居さんから学ぶ大洲市の魅力を伝える方法

魅力を伝えるために必要なことは、「他の地域と比べてさらに良いものになりたい」と思うことも必要ですが、今あるものの魅力を見つめ直すということもまた大切ということでした。

それは、日常生活に埋もれているありふれた風景や自然が、市外の人からすると「神秘的で素晴らしい」と感じるものがあるということ。そして、それをさまざまな手段で体験し実感していただくことが大切なのだということです。住んでいる私たちが大洲の魅力に「気付き、好きになり、磨き上げる」そうすることで、市外の人へ魅力を紹介できるようになる。

「大洲の良さを伝えたい」と思うことで最高の町づくりにつながっていくということではないかと教えてもらった気がします。